

北西辺境州(現ハイバル・パフトウンハー州)の複数の県にまたがってパキスタン・タリバンが勢力を拡大し、これを看過できなくなったパキスタン軍は2009年4月より掃討作戦を開始しました。6月中旬までにパキスタン軍は同州内のパキスタン・タリバン支配地域をほぼ制圧しましたが、この過程で200万人以上の国内避難民が発生し、着の身着のまま安全な県に逃れてきた国内避難民はキャンプやホストファミリーの家で不自由な生活を強いられました。

この紛争による国内避難民の発生規模は1994年のルワンダ虐殺以来とされています。



ISLAMABAD

ジェンは、2009年6月から国内避難民に対する緊急支援事業を開始しました。大多数の被災者はキャンプではなく、親族、友人・知人あるいは見知らぬ人などのホストファミリーの家に身を寄せていました。ジェンは支援の届いていなかったマルダン県ナライ地区とスワビ県パンジュピル地区のホストファミリー宅で仮住まいする被災者8,912人に生活支援物資1,250セットを配布しました。



事業ハイライト in パキスタン / 支援物資配布



政府、国連、他の人道支援団体からの支援が届いていなかったマルダン県ナライ地区とスワビ県パンジュピル地区で当面の避難生活を支えるための生活支援物資配布を実施しました。テント、ベッド、衛生用品セット、キッチンセットといった生活必需品に加え、真夏の酷暑の中での避難生活を支えるため、飲料水用小型タンク、うちわ、蚊帳などの支援物資も配布しました。



国内避難民の様子



配布リストにサインする避難民



支援物資（キッチンセット）で料理をする様子



国内避難民の様子



物資を受け取った避難民



受け取ったテントで生活する避難民家族



変化と効果



●初動調査に出動

緊急事態であっても調査をし、実態をつかんだ上で事業をデザインすることが無駄やダブりのない支援を可能にします。Chabo!の柔軟な資金のお蔭で、適切な初動調査を実施することができました。

●避難生活の不便さを緩和

国内避難民の多くは命からがら戦闘を逃れてきたため、基本的な生活物資を持たず、ホストファミリーの家の空き部屋1つに1家族が身を寄せるといった不便な生活を強いられました。

テントを受け取った受益者はテントに寝泊まりすることで以前より生活のプライバシーを確保できるようになりました。さらに、真夏のパキстанは40°Cを超える暑さのため、飲料水用タンク、うちわ、蚊帳などの夏用の支援物資も国内避難民の困難な生活を緩和するのに役立ちました。

また、国内避難民の受け入れはホストファミリーやコミュニティに大きな経済的な負担をかけていましたが、生活支援物資を受け取った被災者はホストファミリーから借りていた物資を持ち主に返しました。このように国内避難民を受け入れたコミュニティの負担軽減にも貢献しました。

